ささやかな夢

　覚えていますか。幼いころに入退院をくり返したこと。あれから、心臓病は完治して、大きなケイレン発作も起きなくなった。けれども、自閉症という障害は複雑で、なかなか理解してあげられなくて、ごめんね。

　病弱なあなたと、部屋の中ばかりで過ごしていたころ、近くの公園で元気に遊ぶ子どもたちの声が、本当にうらやましかった。あのころの私の夢は、あなたが泥だらけに汚した靴を洗うことでした。

　パパが亡くなり、田舎に引っ越し、色々あったけれど、農道を散歩しているあなたが、とても穏やかな顔をしているので、全ては、これで良かったのだと思っています。

　今朝、二人分のスニーカーをごしごし洗って干しました。いつの間にか、夢はかなっていたのです。これからも、一緒にゆっくり歩いてゆこうね。

応募時（三重県55歳）小山肇美